

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

「ポスト・トゥルースの時代」お薦めの本5選  
6月に始まったグリーンゾーン展示の中から、情報化社会が引き起こす問題について考える本5冊をご紹介します。

- 『メディア不信』 著者：林 香里 出版社：岩波書店 出版年：2017年
- 『ルポ ネットリンチで人生を壊された人たち』 著者：ジョン・ロンソン 出版社：光文社 出版年：2017年
- 『フェイス・トゥ・フェイス・ブック』 著者：エド・ケラー 出版社：有斐閣 出版年：2016年
- 『うわさとは何か』 著者：松田 美佐 出版社：中央公論新社 出版年：2014年
- 『銃後』 著者：川島 高峰 出版社：読売新聞社 出版年：1997年

無線LANが新しくなりました。

6月25日(月)より日比谷図書文化館内で利用できる無線LANが新しくなりました。利用の際は、IDとパスワードの新規登録をお願いいたします。IDとパスワードは館内掲示をご覧ください。(初回利用時のみ)その他の詳細については、ホームページや館内掲示をご確認ください。

8月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

- 2F パープルゾーン 「大正モダン」(～9/14)  
短い時代区分ながらその中で様々な文化が開花した大正時代。当時の華やかな着物やポスター、広告などデザインについての本から、文学、社会情勢に関する本まで集めました。
- 2F パープルゾーン 1階特別展「大正モダニズム 大正イマジナリと東京モダンデザイン」関連展示(～8/7)  
現在行われている特別展にあわせて、小村雪岱や杉浦非水を始め、この時代に活躍した挿絵画家や図案家の手掛けた本の装幀や広告、商品パッケージに関する資料をご紹介します。
- 3F ブルーゾーン 「夜」(～9/14)  
日比谷図書文化館は、平日は夜10時まで開館しています。そこで夜という時間帯の魅力に迫り、夜の有効な活用方法、文学や芸術における「夜」の捉え方などをご紹介します。

大人のボードゲーム部@日比谷図書文化館 第3回 「カルカソンヌ」 Carcassonne

「カルカソンヌ」では、同名の南仏の中世都市にちなんで、城壁に囲まれた町、草原に浮かぶ修道院、人が行き来する道などを配置し、風景を描いていきます。遊ぶ度に異なるその舞台の上に騎士、盗賊、農民、修道士を駆使し、勢力を競います。他のボードゲームのご用意もあります。初心者大歓迎! 皆様のご参加をお待ちしています。

From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

夏休みの宿題も専門の司書がサポート!

### 調べもの戦隊 / レファレンジャー

本探しの助っ人が今年もやってきます。自由研究や読書感想文用の本など、夏休みの宿題に役立つ本を、「調べもの戦隊レファレンジャー」が一緒に探します。(8月6日(月)～10日(金)は四番町図書館にも出動!)

【子どもの読書相談】  
宿題や自由研究の調べもの、読書感想文に適した本をお子様と一緒に探します。

【保護者の読書相談】  
読み聞かせ方法や絵本の与え方や選び方などの相談を承ります。

- 場所：千代田図書館10階 児童書コーナー
- 日時：7月21日(土)～8月31日(金) 9:00～17:00
- ※ 予約不要、7月22日(日)・8月26日(日)は休館

展示 PICK UP

3Fグリーンゾーン【哲学・歴史・自然科学】の本を集めたゾーン ～10/12(金)

ポスト・トゥルースの時代

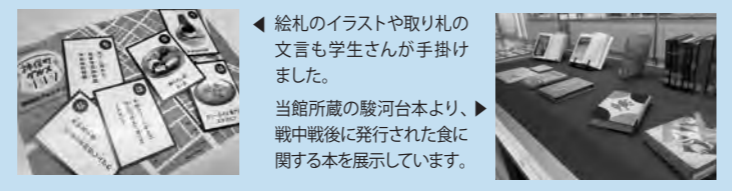
ポスト・トゥルースとは客観的事実よりも、個人の感情に訴えるもののほうが強い影響力を持つ状況を言います。口伝や高札(こうさつ)から始まり、新聞、テレビ、そしてインターネットやSNSと、私たちは情報を得る手段とともに、発信する手段を手に入れました。『真理がわれらを自由にする』とは国立国会図書館に掲げられた言葉ですが、誰もが情報を生み出せる今、その膨大な量の前に、かえって真理が霞んでしまったのかもしれない。私たちが真実とするものは何かを考え、未来のコミュニケーションの一助にして頂きたい展示です。



3Fホール ガラスケース ～8/19(日)

「神保町グルメかるた」

千代田区内にある共立女子大学の学生さんが作成した「神保町グルメかるた」を展示しています。このかるたは、神保町の庶民的で美味しいお店を訪ねて頂き、地域全体の活性化を図る目的で作られました。44店がかかるたになっており、折りたたみの地図付きて、店巡りも楽しめます。



● 日時：8月8日(水) 18:30～21:00(18:15開場)  
● 会場：4階セミナールームA ● 定員：20名(事前申込制)  
● 参加費：無料 ● 対象：高校生以上 ● 申込方法：電話(03-3502-3343)、来館(2階図書総合カウンター)いずれかにて、お名前と電話番号をお知らせください。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

## 夏休みに学ぶ

「夏がやって来ました。夏になると思い出すのは、海や山に出かけたことや、後回しにした宿題や自由研究でしょうか? 今年の夏は、興味のあることや、自らの課題のテーマを調べ直し、次のステップにすすむ、新しい知識を得ることにチャレンジしてみるのは如何でしょうか? 日比谷図書文化館では様々なジャンルの蔵書や、テーマ別のコーナー展示を用意しています。館内を散策すれば、新たな本との出会いがあり、知識が深まり、新しい興味が発見できます。

自然に親しむ。

夏は自然に親しむ絶好の機会です。出かけた場所で自然に触れ合うことはもちろんですが、都会の自然を見直す機会でもあります。身の周りには新しい発見が都会を身近に感じさせるはず。2階ホールの「千代田区生きものさがし2018」関連のコーナー展示もぜひ参考にしてください。

「フェアブル 驚異の博物学図鑑」イグナツィオ・カンパニョーリ/著、奥本大太郎・瀧下茂代/訳 エクスナレッジ/2016年

「夏季復習帳 大正九年度甲種尋常科第三学年」千代田区教育委員会蔵

## 歴史を知る。

江戸・東京に関する資料を多数蔵書しています。歴史を知って街に出れば、今までと違った風景に出会い、新たな興味が見つかります。1階の常設展示室では千代田区の歴史を様々な資料や映像で解説しています。こちらも、ぜひご覧ください。

## ビジネスを考える。

ビジネスパーソンの方々のために、2階オレンジゾーンではビジネス関連の雑誌・書籍などの資料を豊富に備えており、インターネット利用席や企業情報が調べられるデータベースがあります。今年の夏は、日比谷公園の豊かな緑の中に位置する当館でビジネスのスキルアップを。

calendar 開館時間：平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2018年8月							2018年9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23/30	24	25	26	27	28	29

お問合せ先：千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4  
TEL:施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343 URL:https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

access

- 〔都営地下鉄〕 ● 三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
- 〔東京メトロ〕 ● 丸の内線 ● 日比谷線 ● 千代田線 ● 霞ヶ関駅B2出口徒歩3分 ● 千代田線 ● 霞ヶ関駅C4出口徒歩3分 JR「新橋駅」徒歩10分

※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 8・9月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 8/8 (水) 心を育み脳が紡ぐ 生命の進化の来し方行く末

講師：入来 篤史(理化学研究所・生命機能科学研究センター・象徴概念発達研究チーム チームリーダー)

私達の心は、臓器の一つである脳が、『成長を前提とした円環』的な進化によって手に入れた、生命現象の一つです。つまり、脳(神経ニッチ)が膨大し、知的能力(認知ニッチ)が高まり、知性で世界(環境ニッチ)を改造し、その環境に適応してまた脳が大きくなる、という『三位一体ニッチ構築』です。すると、成長を前提とした私たちの世界は、やがて行き詰まってしまうのでしょうか？一緒に考えてみたいと思います。



■日時：8月8日(水) 19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名 ■参加費：1000円

## 8/9 (木) 展覧会への入口講座 vol.24 喧噪の巷へー「江戸名所図屏風」を歩く

講師：廣海 伸彦(出光美術館学芸員)

新興都市・江戸を眺望する絵画のうち、「江戸名所図屏風」(重要文化財)は明暦の大火(1657)以前の様子を伝える貴重な作例です。全長10メートル近い画面には、労働に勤しみ、歓楽街に集い、日々の暮らしを謳歌する人々の姿が、豊かに表現されています。今回は、この作品を中心に江戸を描く都市図の魅力を紹介합니다。



江戸名所図屏風(左隻部分)(重要文化財)

■日時：8月9日(木) 19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名 ■参加費：1000円(千代田区民500円)

## 8/24 (金) 上廣・日比谷ライブラリーレクチャー シリーズ「私の修業時代」 言葉を求め、言葉を超越る言霊の探求の旅～私の修業時代

講師：鎌田 東二(上智大学教授グリーンケア研究所特任教授)

私は10歳の時、宮崎県の青島に立ち寄り、『古事記』の中の日向神話に登場する神々が、この神社の神様として祀られていることに衝撃を受け、神話と場所(神社)が強烈に接続される体験を持ちました。以来、言葉、詩、神話とは何か、超越経験や宗教経験とは何かを問い続けています。その探究のプロセスをお話します。



(主催：公益財団法人上廣倫理財団、共催：日比谷図書文化館)

■日時：8月24日(金) 19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名 ■参加費：500円(千代田区民・学生無料)

※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

## 8/30 (木) 三国志の世界―諸葛亮と曹操

講師：渡邊 義浩(早稲田大学文学学術院教授)

今から 1800年ほど前、中国の2～3世紀を描いた『三国志』は、実に多くの人物が登場し、それぞれの生き方が展開されていきます。さまざまな人物が生きた三国時代とはどんな時代だったのか、諸葛亮と曹操を中心に『三国志』の世界をご案内いたします。



「赤壁」撮影：渡邊 義浩氏

■日時：8月30日(木) 19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名 ■参加費：1000円

## 8/31 (金)他 「地政学」を再考する ―覇権争奪史に見る「地理学と政戦略の融合」(全2回)

講師：林 吉永(NPO国際地政学研究所理事)

「戦争史」から「地理学と政戦略の融合」を学びます。アレクサンドロス大王は、東征に際しアリストテレスから地勢や風土への関心を教示されました。戦争の世紀「20世紀」には、覇権獲得の戦略「地政学」が誕生します。第1回では、この地政学的現象の確認を歴史のレビューを通して行います。第2回では、実践に供された論考を紹介し、地球規模の連鎖と、今日の国際社会の地政学的現象を考えます。



■日時：第1回 8月31日(金) 19:00～20:30(18:30開場)  
「地政学の概念 ―歴史に見る地政学的現象―」  
第2回 9月14日(金) 19:00～20:30(18:30開場)  
「地政学理論 ―伝統的地政学の萌芽と深化―」  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：各回60名 ■参加費：各回1000円

## 9/5 (水) 江戸文化歴史検定×ジャパンナレッジ お江戸ルほーりー文化講座⑥ 江戸をつくったヒロインたち～女性視点の江戸通史～

講師：堀口 茉純(歴史タレント、歴史作家)

タレントで歴史作家の堀口茉純氏を講師に迎えておくる講座第6弾。江戸の封建制の世の中。歴史の表舞台に出なくても、懸命に自分なりの生き方を貫いた女性たちがいました。江戸を草創期、前期、中期、後期、幕末期の五つに分けて、その時代を象徴するヒロインたちの人生を堀口氏が解説します。

(主催：江戸文化歴史検定協会、ネットアドバンス、共催：日比谷図書文化館)

■日時：9月5日(水) 19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名  
■参加費：1000円



## 9/7 (金) 「ごちそう」から見える世界～30カ国を旅したシェフからの報告～

講師：本山 尚義(世界のごちそう博物館 代表)

世界30カ国を旅し、現地の人と関わり合いながら料理を学ぶうちに、世界の国々の価値観の違いや様々な問題も知った本山氏が、料理を通じて伝えたいことは。これまでの活動とこれからの活動への想いをお話します。

■日時：9月7日(金) 19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名  
■参加費：1000円



## 9/10 (月)他 HIBIYAイノベーション・キャンパス2018

講師：鳥谷 真佐子(慶應義塾大学大学院SDM研究科 特任講師)  
広瀬 毅(慶應義塾大学大学院SDM研究科 特任助教)

物事や世界をシステムとして捉えて問題解決やアイデア創出をするプロセスを学ぶ講座です。「ワークショップ」の【初級編】では、システム思考の基礎的な知識と、物事をシステムとして捉え、新たな価値を生む糸口を見つけるための基礎的なワークの流れを学びます。【実践編】では、初級編と同様の知識・方法を学ぶと共に、システム思考を通じて既存のやり方に囚われないアイデアおよび実現方法を考えるまでの流れを体験します。



(協力：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属SDM研究所イノベティブデザインセンター)

■日時：9月10日(月) 19:00～21:00(18:30開場)  
第1弾 ワークショップ【初級編】  
「システム思考で新たな価値を生む糸口を見つける」  
9月22日(土) 13:00～17:00(12:30開場)  
第2弾 ワークショップ【実践編】  
「システム思考で既存に囚われないアイデアおよび実現方法を考える」  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：各回40名  
■参加費：第1弾 ワークショップ【初級編】2000円  
第2弾 ワークショップ【実践編】3000円

## 9/13 (木) 近代日本のポピュリズム ―日比谷焼き打ち事件から日米戦争へ

講師：筒井 清忠(帝京大学文学部長)

ポピュリズムは現代の政治状況を表現するのによく使われる用語だが実は日本にはすでに戦前に存在していた。それは日露戦争後の日比谷焼き打ち事件に始まる。以後、普通選挙から満洲事変、五・一五事件、近衛文磨ブーム、日米開戦へと戦争に至る道を追い、歴史の教訓を学ぶ。

■日時：9月13日(木) 19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名  
■参加費：1000円



## 9/15 (土) バレエ史って面白い！ー2 藤田嗣治の手掛けたバレエ～バレエ・スエドワの世界

講師：芳賀 直子(舞踊史研究者)

没後50周年を迎えた画家・藤田嗣治が舞台美術・衣裳を手掛けたバレエ団「バレエ・スエドワ」は「1920年代パリを体現するバレエ団」と言われています。ルネ・クレールによる映像やレジェによる舞台は今見ても斬新そのもの。その魅力をお伝えできればと思います。

■日時：9月15日(土) 14:00～15:30(13:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名  
■参加費：1000円



バレエ・スエドワ主宰者 スウェーデン貴族 ロルフ・ド・マレ (画像提供：Naoko Haga Collection)

## 9/20 (木) 古書で紐解く近現代史セミナー 第31回 製本と修復 ―「ルリユール」で広がる書物の世界―

講師：岡本 幸治(アトリエ・ド・クレ代表)

16世紀以降ヨーロッパでは、本は複製本の状態で売られ、購入者が自身の好みで製本工房の職人に製本を依頼していました。その製本術を「ルリユール」といいます。内田嘉吉文庫所蔵の「ルリユール」で製本された洋書の修復を手がけてきた講師が、修復の実例を紹介しながら「ルリユール」の変遷についてもお話します。

■日時：9月20日(木) 19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民・学生500円)  
※学生の方は、当日学生証をご提示ください。



### 特別研究室企画展示

## 100年後も手に取れる本に 2018 ～内田嘉吉文庫修復報告～

2017年度に行った内田嘉吉文庫蔵書の修復記録と修復を終えた本を展示しています。製本家が長く使い続けるための工夫を凝らした修復本のほか、修復作業に必要な道具類も写真パネルで紹介しています。また、今回は江戸指物師により修復された外箱も展示し、資料を保管するための修復についても考える展示構成としています。

● 9月30日(日)まで開催中



(左より)『Japan, the Amoor, and the Pacific』 『通信事業図解2』

※会期中、展示替えがあります。

### ポモーン広報室より

子供の頃の夏休みといえば、毎日、太陽の下で遊んだことや宿題や自由研究に取り組んだことは、多くの人が経験している思い出ではないでしょうか。表紙にある大正時代の「夏季復習帳」は、今と変わらず子供達が夏休みの課題に取り組んでいたことが伺えます。内容は、文字の書き取りや計算の問題などの他に「なぞ」と書かれたページもあります。

「私はとんだりはねたりするのが大きいです。何かかたい物にあたると、すぐはねかえります。強い力でなげつけられるほど、強いいきほひではねかえります。よいかげん力ではねさせてもらふと、百度はねても、二百度とんでも、ちつともつかれません。私のからだはまんまるです。」さて、なんでしょう？